

参考資料 4

国際的動向を踏まえたオープン
サイエンスの推進に関する検討会（第2回）
平成30年2月23日（金）

第1回 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会

議事概要

1. 日 時：平成29年12月27日（水）13：00～15：00
2. 場 所：中央合同庁舎4号館4階 特別第2会議室
3. 出席者：（敬称略）

引原（座長）、喜連川（副座長）、有川、家、小賀坂、川村、黒川、関口、谷藤、林、村山の各構成員、原山総合科学技術・イノベーション会議議員、山脇統括官、生川審議官、赤池参事官、梅澤参事官

1. 統括官挨拶

冒頭、統括官より、オープンサイエンスにかかる世界的議論の動向を踏まえながら、我が国としてのオープンサイエンスの推進に係る議論を深め、年央を目途に策定予定の「統合的かつ具体的なイノベーション戦略」にその取組等を盛り込むことや、その成果を基に国際的な議論の場で我が国のプレゼンスを示すことが肝要であることを踏まえて、本検討会を開催する旨の挨拶があった。

2. 座長選任

本検討会の座長に引原委員が、副座長に喜連川委員が指名された。

3. 議事

(1) 事務局説明

はじめに事務局より、オープンサイエンスの現状と課題、推進すべきと考えられる取組例などについて説明を行った。

(2) プレゼンテーション

林委員から「オープンサイエンス政策の背景と現状 資源として研究データ」について、プレゼンテーションが行われた。

(3) 主な意見等

上記の事務局説明及びプレゼンテーションを踏まえた意見交換が行われた。

(オープンサイエンスの推進に係る意見の論点)

- 他国との関係者と意見交換の際に、オープンサイエンスの政策文書の話になる時があるが、政策文書におけるその考え方等については、各国とも大きな差異がないという印象を受けるものの、それをどのように実施（インプリメンテーション）していくか、国の背景事情もあり異なる。
- オープンサイエンスに関する国際的な枠組みを日本にどのようにして取り入れるのではなく、欧米の専門家が検討している中で、日本が欧米と同様に議論して、その将来像を作り上げていくことが重要。
- オープンサイエンスは分野に依存する側面が大きいものの、一般論的な考え方は既に確立されているに近い。具体的に推進していくフェーズとして、分野に応じてどう国益を確保するのかという観点が重要。
- 研究データを整備する専門家を評価するなどのインセンティブに関する議論が必要であり、これをボトムアップやトップダウンで進めていくことも課題。
- コアトラストシール（CoreTrustSeal）の取組については、FAIR原則（Findable, Accessible, Interoperable, Reusableという理念に則ったデータの共有の推進）の考え方と照らし合わせて、データの信頼性をどう担保・確保していくのかという観点から今後注視する必要があると考える。

4. その他

- 次回は2月前半目途に開催できるよう日程調整を進めさせていただく。